

# 事業実施結果報告書

## 障害者芸術文化活動普及支援事業

団体名称	社会福祉法人グロー(GLOW)～生きることが光になる～	代表者	理事長 北岡 賢剛
所在地	滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地 2		
事業担当者	法人本部企画事業部 齋藤誠一、木元聖奈		
連絡先	0748-46-8118	メールアドレス	kimoto-seina@glow.or.jp

## 1 事業概要・成果報告

<p><b>取り組んだ事業の概要、事業実施により得られた成果</b></p> <p>※できる限り具体的に記入すること</p>	<p>本県においては、平成 24 年に当法人内にアール・ブリュット インフォメーション&amp;サポートセンター（略称：アイサ）を設置し、障害のある作者や家族、支援者等に対する相談支援、研修会の開催、造形活動現場の訪問調査等を行ってきた。さらに平成 26～28 年度、障害者の芸術活動支援モデル事業を実施したことで、美術分野においては障害者芸術文化活動支援センター必要とされる機能が一定整理されてきた。今年度新たに加わった舞台芸術分野においては、平成 14 年から障害の有無に関わらず、歌、ダンス、演奏などを公演する糸賀一雄記念賞音楽祭の事務局として県内 6 か所のワークショップの立ち上げや運営のサポートをしてきた。相談支援窓口の不在や活動現場調査は未実施であったため、美術分野においては継続して事業に取り組みつつ新たな試行的実践を行うなかで、さらに必要な事業を整理することとし、舞台芸術分野においては、支援センター設置一年目の地盤を整えるという観点で、アドバイザーの人材育成と舞台表現分野のニーズ調査をすることに注力した。</p> <p>全体として計画的に事業を進め、展覧会や研修会のアンケート結果では平均 98%が「よい」「大変よい」と回答しており高い満足度が得られた。舞台芸術分野に関しては、県内の障害福祉施設、特別支援学校、精神科病院の一部に舞台表現活動現場の訪問調査を実施した。それぞれの現場からあがった課題としては、予算や職員の配置の他に特に大きな課題は無いという回答だったが、美術分野においてもそうであったように、地道な訪問調査やまだ取り組みが始まっていない事業所等への働きかけを通して、ニーズの掘り起こしに繋がる可能性がある。新たに相談支援を行う者に対しては、アドバイザーの専門性について、必要な知識・技術を習得する方法を整理した。また、今後寄せられると想定される舞台芸術分野に関する相談への対応について、実演者の権利保護に関して弁護士からのスーパーバイズを受けた。障害のある作者やその家族から、著作権や所有権のことが難しくて分かりづらいという声があったことから、それらをわかりやすく説明する文書の作成を行ったことも、アドバイザーのスキルアップに繋がる</p>
--	---

	<p>取り組みとなった。</p> <p>「美術＋舞台芸術 障害者の芸術活動支援セミナー」には支援者や当事者、学生や教員、作業療法士、地域住民など計 62 名が参加した。新たに視覚障害者や発達障害者とのプログラムに取り組み、障害種別によらず鑑賞できるようソフト面でのアクセシビリティを検討した。試行的実践であったが、今後の継続を望む声があり、参加者の満足度は高いものだった。特に発達障害のある方の作品鑑賞支援は全国的にも初の取り組みであった。</p> <p>県内 27 機関と連携して開催した「第 14 回滋賀県施設・学校合同企画展」には出展者 39 名の作品を二期にわたって紹介し、1047 名が来場した。県内 22 機関と協力して上演した「糸賀一雄記念賞音楽祭」には、障害のある人、支援者、プロの音楽家やダンサー等 194 名が出演し、434 人が来場した。障害者の作品を広く発表するだけでなく、支援者同士の交流や研修の場ともなっており、ネットワークづくりと人材育成においても効果的な取り組みであったと言える。滋賀県施設・学校合同企画展の関連イベントでは、地域のイベントスペースで歌やダンスの発表を行い、既存の活動体では活動していない障害のある方々がパフォーマンスをする機会を創出した。</p> <p>本事業の取り組みを詳細にまとめた「障害者芸術文化活動普及支援事業 2017 年度報告書/滋賀」（別添）を作成した。</p>
--	---

## 2 事業実績 ※組織図、事業イメージ図等がある場合は添付すること

<b>事業内容及び手法</b>	
※下記(1)については、支援センターを実施した団体のみ記入すること。	
<b>(1)支援センター(都道府県レベル)</b>	
<p>①相談窓口の体制(人数や勤務体制等)</p> <p>※窓口担当が不在時の対応等についても記入すること。</p> <p>※専門家アドバイザーも含め、どのような相談体制で事業を実施したのか、できるだけ具体的に記入すること。</p>	<p>滋賀県障害者造形活動支援センター（アール・ブリュット インフォメーション&amp;サポートセンター[略称：アイサ]）での相談対応</p> <p>I 担当者：常勤 3 名 非常勤 1 名 外部専門家アドバイザー 4 名 (専門分野：弁護士、学芸員、アートディレクター、ミュージシャン)</p> <p>II 対応時間：月～金曜日 9:00～17:45</p> <p>III 設置場所：〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地 2 社会福祉法人グロー法人本部企画事業部内 電話：0748-46-8118（専用回線） FAX：0748-46-8228 Email:artbrut_info@glow.or.jp</p> <p>IV 対応方法：アイサ専用回線での電話、メールの他、FAX、郵送、場合によっては訪問や来所相談を実施した。窓口担当不在時、電話受信時は、社会福祉法人グロー法人本部企画事業部の部員が代わりに相談内容を伺い、アイサ担当者に内容を伝達する。それを受けてアイサ担当者が折り返し連絡をした。また、法人で運営するボーダレス・アートミュージアム NO-M A への問い合わせの中で必要に応じてア</p>

	<p>イサへ繋ぎ対応した。</p> <p>V 相談件数：241件（H29.6.9～H.30.3.10）</p> <p>VI 主な相談内容：「創作活動を活発に行っている福祉施設の見学にいきたいので情報が欲しい（障害福祉施設）」、「美術の授業での生徒の集中力をあげるために参考になる事例を教えて欲しい（特別支援学校）」、「公募展情報や貸しギャラリーの情報を教えてほしい（作者・家族、障害福祉施設）」、「アール・ブリュットの展覧会を開催したいので、開催方法を教えてほしい（市民）」、「映画のパンフレットに作品の画像を使用したいので、作者の許諾が取りたい（企業）」「展覧会に既存のキャラクターをモチーフにした作品を展示しても問題ないか教えてほしい（障害福祉施設）」、「アール・ブリュットのドキュメンタリー番組を制作したいので作者に繋いでほしい（報道関係者）」等</p>
<p><b>②人材育成のための研修実績</b></p>	
<p><b>(ア)著作権等の権利保護に関する研修</b></p> <p>※研修内容、回数、研修方法、講師等の実績についても記入すること。</p>	<p>「美術＋舞台芸術 障害者の芸術活動支援セミナー」実施概要</p> <p>I 「障害福祉サービス事業所での著作権保護」</p> <p>H29.11.8/草津市立市民交流プラザ小会議室 2/講師：上野久美子（滋賀県健康医療福祉部障害福祉課主任主事）、平塚崇（北大津きぼう法律事務所弁護士）、西村真人（社会福祉法人さつき福祉会琴弾の丘施設長）/参加者：5名</p> <p>II 「作品の二次利用や売買に関する研修会」</p> <p>H29.11.24/草津市立市民交流プラザ中会議室/講師：北澤桃子氏（GALLERY COOCA 施設長・studio COOCA 副施設長）、田淵エルガ氏（横浜国立大学国際社会科学研究院 准教授）/参加者：11名</p> <p>※チラシとアンケート集計結果は別添資料で報告</p>
<p><b>(イ)障害者への芸術文化活動の支援方法に関する研修</b></p> <p>※研修内容、回数、研修方法、講師等の実績についても記入すること。</p> <p>※(ア)と(イ)を同時に行った場合などは、それぞれの欄に表記し、注をつけるなど、明確に記入すること。</p>	<p>I 活動体験1 「湧き上がってくる表現を見つけよう」</p> <p>H29.10.28/バンバン（湖南省市）/講師：井上多枝子氏（アートディレクター）/参加者：3名</p> <p>II 活動体験2 「即興ダンスを体感しよう」</p> <p>H29.12.2/コミュニティセンターきたの大ホール（野洲市）/講師：北村成美氏（ダンサー・振付家）/参加者：3名</p> <p>III 活動体験3 「歌と楽器で表現を楽しもう」</p> <p>H29.12.15/サンヒルズ甲西（湖南省市）/講師：林 美紀氏（合唱指揮者、音楽家）/参加者：3名</p> <p>IV 活動体験4 「さまざまな打楽器を演奏しよう」</p> <p>H30.1.20/大津市立やまびこ総合支援センター/講師：清水美紀氏（打楽器奏者）/参加者：2名</p> <p>V 技術研修1 「作品の基礎知識と技術研修」</p>

	<p>H29. 10. 26/ボードレス・アートミュージアム NO-MA (近江八幡市) /横井悠 (NO-MA 学芸員) /参加者：6名</p> <p>VI 技術研修2「舞台製作補助と出演者のフォローアップについて」</p> <p>H29. 11. 4, 5/栗東芸術文化会館さくら大ホール (栗東市) /参加者：0名</p> <p>VII 作品鑑賞1「個々に合った作品鑑賞を考える」</p> <p>H29. 11. 18/ボードレス・アートミュージアム NO-MA/参加者：15名</p> <p>VIII作品鑑賞2「作品を手で見て、言葉にして、鑑賞する」</p> <p>H29. 12. 10/ボードレス・アートミュージアム NO-MA, 第3区自治会館 (近江八幡市) /講師：横井悠 (NO-MA 学芸員) /参加者：14名</p> <p>※チラシとアンケート集計結果は別添資料で報告</p>
<p><b>③関係者のネットワークづくり</b>※ネットワーク構築方法、ネットワークを活用した具体的な取組実績について、できる限り具体的に記入すること。</p>	<p>I 舞台表現活動現場の訪問調査</p> <p>昨年度までに県内の84機関を訪問し、造形活動現場の見学と担当者へのヒアリングを行った。その調査結果を、研修会の企画実施や参加型展示会への参加案内などに活用したことで、美術分野のネットワーク構築に繋がった。今年度新たに舞台芸術分野が対象となったため、県内の障害者の舞台表現活動を行っている障害福祉施設や特別支援学校、精神科病院等への訪問調査した。今年度は、8か所へ調査を実施し、県内で10年以上の活動を行う団体を中心に訪問した。他には参加型展示会の参加施設からの情報提供を受け、市民活動団体への調査に繋がったケースもあった。このように様々な団体のネットワークを活用したり、継続的な調査をすることで市民レベルの活動にも繋がったと考えられるが、まだ一部の調査に留まっているため、今後も継続して調査を実施していく。(調査結果は別添報告書P. 41-45)</p> <p>II 関係者の交流の場づくり</p> <p>第14回滋賀県施設・学校合同企画展(参加型展示会)で障害のある作者やその家族、福祉関係者、美術関係者等が交流・参画する場として、「ingオープンアトリエ ごちゃまぜワークショップ」を開催した。障害のある作者7名のほか、施設関係者や美術系・福祉系の学生ボランティア、作者の家族などの協力のもと実施した。当日は40名の参加があり、普段は交流のない人たちが一緒に造形活動やステージパフォーマンスを体験する機会となった。主に造形活動をしている障害のある方が、歌やダンス、ヒーローショーのパフォーマンスをしたことは、新しい舞台表現の発表の場を検討するうえで重要な取り組みとなった。(調査結果は別添報告書P. 46-47)</p>
<p><b>④参加型展示会・公演等の開催</b></p> <p>※展示会や公演等の成果発表の企画方法や開催について、その取組実績をできる限り具体的に記入する</p>	<p>(参加型展示会)</p> <p>I タイトル 「第14回滋賀県施設・学校合同企画展 ing…～障害のある人の進行形」</p> <p>II 会期 平成29年12月2日(土)～24日(日)、平成30年1月6日(土)～28日(日)</p> <p>III 出展者数 (障害あり38名、障害なし1名) 計39名</p> <p>IV 来場者数 (障害あり204名 ※確認できた数、障害なし843名)</p>

<p>こと。</p>	<p>計 1,047 名</p> <p>V 取組内容 県内の障害のある人の作品を発表するだけでなく、展覧会開催のプロセスを通して支援者の交流や研修の場としても展開することで、さらに障害のある人の造形活動が活発化することを目指した。障害福祉施設を中心に特別支援学校と一般の造形教室計 27 機関が参加し、全 10 回の実行委員会を通して協議しながら、出展作品の決定、展示構成、展示作業、図録作成、イベント運営などを主体的に行った。(来場者や実行委員の感想など、詳細は別添報告書の P. 27-34、開催報告、図録に掲載)</p> <p>(参加型公演)</p> <p>I タイトル 「糸賀一雄記念賞第十六回音楽祭～湖(うみ)のまどろみ～」</p> <p>II 開催日時 平成 29 年 11 月 5 日(日) 開場 13:30 開演 14:00</p> <p>III 出演者数 (障害あり名、障害なし 00 名) 計 194 名</p> <p>IV 来場者数 (障害あり 129 名(高齢者、学生含む)、障害なし 295 名) 計 434 名</p> <p>V 取組内容 県内 6 か所で月 1、2 回程度、歌、ダンス、打楽器演奏などの活動をするワークショップグループを中心に、障害のある人だけでなく、支援者、音楽家、ダンサーなどが一緒に発表する音楽祭として開催した。年間を通して活動するワークショップの表現、またプロのアーティストとのコラボレーションの発表の場として、障害の有無、プロとアマチュアなどジャンルの境界を越える試みとなった。(詳細のプログラムや来場者の感想は、別添報告書の P. 35-40、開催報告、パンフレットに掲載)</p>
<p><b>⑤協力委員会の設置</b></p> <p>※別添「協力委員名簿」を作成するとともに、協力委員会の実施内容や実施回数等について具体的に記入すること。</p>	<p>I 第 1 回</p> <p>H29. 7. 25 (火) /安土コミュニティセンター視聴覚室/出席者 11 名、事務局 内容：昨年度の事業報告、今年度の事業計画、意見交換</p> <p>II 第 2 回</p> <p>H. 29. 12. 20 (水) /アクティ近江八幡研修室/出席者 11 名、事務局 内容：進捗状況の報告及び意見交換、今後の事業予定</p> <p>III 第 3 回</p> <p>H30. 3. 16 (金) /八幡コミュニティセンター小会議室 A/出席者 11 名 内容：事業実施報告及び意見交換</p> <p>(詳細は別添報告書 P. 49-53 に掲載)</p>
<p><b>⑥調査・発掘</b>※調査方法、調査に伴う専門的人材についても記入すること。</p>	<p>平成 18 年から実施している国内及びアジア地域における作品調査で培った経験やネットワークを活かし、県内の作品調査を実施した。評価委員には、美術的な評価を踏まえた発信を行うため、障害者の芸術活動に詳しい専門家 3 名に評価委員に就任いただいた。</p>

### I 評価委員

井上多枝子(特別非営利活動法人はれたりくもったりアートディレクター)  
田平麻子(滋賀県立近代美術館主任学芸員)  
三浦弘子(滋賀県立陶芸の森専門学芸員)

### II 調査実績

井上委員

H29. 8. 29 (火) /八幡コミュニティセンター/滋賀県施設・学校合同企画展  
実行委員会作品実見

H29. 9. 23 (土・祝) /作者自宅/八巻清治氏

H. 29. 9. 27 (水) /やまなみ工房/竹中克佳氏

H. 29. 10. 24 (火) /きぬがさ作業所/八巻清治氏

H29. 11. 27 (月) /やまなみ工房/竹中克佳氏

H. 29. 12. 5 (火) /やまなみ工房/竹中克佳氏

H29. 12. 19 (火) /やまなみ工房/竹中克佳氏

田平委員

H29. 8. 29 (火) /八幡コミュニティセンター/滋賀県施設・学校合同企画展  
実行委員会作品実見

H29. 10. 13 (金) /滋賀県立近江学園/木村佑介氏

H29. 10. 25 (水) /やまなみ工房/鶴飼結一朗氏

三浦委員

H29. 10. 5 (木) /滋賀県立八日市養護学校/小堀拓恭氏

### III 調査内容

8月末、滋賀県施設・学校合同企画展の作品実見では、県内27か所の福祉施設や学校から持ちよられた作品を調査した。そのことは調査・発掘事業が県内の福祉施設や学校の担当者に認識され、評価委員と現場職員が交流する機会ともなった。八巻清治氏は、相談支援員からの情報提供があり、調査・発掘に繋がったケースである。在宅で制作する作者の情報はなかなか掴みづらいところがあるが、相談支援員が自宅を訪問した際に作品をみて、井上委員に情報提供を行った。竹中克佳氏の調査では、普段はあまり発表されていない立体作品を調査し、展示に繋がった。実は絵画よりも立体作品のほうが作者の思い入れが強いという情報を得て調査しており、踏み込んだ調査を行った成果であった。木村佑介氏は、既に児童福祉施設を卒園されており、当時の職員から話を聞いて調査をした。木村氏は現在制作しておらず、学齢期の子供が卒園後に制作の機会が得られない課題もみられた。

### ⑦評価・発信

※評価方法、発信方法、  
評価委員会の委員選考方

### I 評価委員会の設置・開催

事業実施当初に評価委員会を設置し、調査や発信の方法について協議した。展覧会評価委員の調査が概ね終了した11月には、調査報告として作者や作品を紹介し、展覧会として発信するための展示構成について協議を行った。

法についても記入すること。

第1回

H. 29. 7. 19 (水) / (社福) グロー本部会議室/事業概要、昨年度事業について意見交換、調査先と作者の選出方法について、発信方法について等

第2回

H. 29. 11. 28 (火) /奥村家住宅/各委員の調査実施内容の報告、出展作者と作品の紹介、展覧会の企画(案)について、展示構成について等

II 企画展の開催

(i) タイトル:シガカラー2018~町屋へ歩く、心動かされる~

(ii) 会場:奥村家住宅(近江八幡市)

(ii) 会期:平成30年1月20日(土)~2月18日(日)

(iii) 出展者:鵜飼結一朗、木村佑介、小堀拓恭、竹中克佳、八巻清治

(iv) 出展作品数:157点

(v) 来場者数:560人

(vi) ボランティアスタッフ:39名

展覧会会場の運営においては、地域の方を中心に県外からも参加されたボランティアスタッフに活動いただき、開場準備、受付、来場者の対応、閉場作業を行った。12月中旬に募集チラシを作成して呼びかけ、1月には募集説明会や事前研修を開き、活動マニュアルを用意するなどして安心して活動してもらえるようにした。展覧会の受付や作品案内業務を通して、障害のある人の作品の魅力に触れ、そのことを言葉にする力が養われていた。(詳細は報告書P. 61、62に掲載)

⑧都道府県との連携

※都道府県との連絡体制や都道府県と協力して実施した事業の内容について記入すること。

I 滋賀県観光パンフレット(文化振興課作成)にあたり、アール・ブリュットに関する情報提供や画像掲載の協力をした。

II 障害福祉課がアイサの権利保護研修会に登壇し、県の取り組みについて報告した。

III 滋賀県立近代美術館学芸員、滋賀県陶芸の森美術館学芸員が、滋賀県内の障害者の作品調査に協力、評価委員会に参画した。

IV 滋賀県が県内の市町や民間団体と共同して実施する障害者の作品常設展示(ふらっと美の間事業)を受託した。

V 調査した作品の一時保管場所の確保に関する財政的な支援を受けた。

VI アール・ブリュットネットワークフォーラム2018を連携して開催した。

VII 滋賀県が主催する障害者アート公募展「ぴかつ to アート展」にNO-MA学芸員が実行委員として参画した。

VIII ボーダレス・アートミュージアムNO-MAが文化庁の補助を受けて実施する「アール・ブリュット魅力発信事業」の実行委員会に障害福祉課、文化振興課が参画した。

IX 滋賀県障害者プラン改定に係る小委員会(文化・芸術)の委員として、アイサアドバイザーが出席した。

X 新生美術館の整備について、「みんなで創る美術館円卓会議」の委員とし

	<p>てアイサアドバイザーが出席した。</p> <p>XI 滋賀県文化審議会の委員をアイサ所長が務めた。</p>
<p><b>⑨障害者芸術・文化祭との連携</b>※全国障害者芸術・文化祭やサテライト開催と連携した実績について、具体的に記入すること。</p>	<p>I なら大会オープニング「開会式」への出席 平成 29 年 9 月 2 日(土)に東大寺大仏殿前で行われた開会式へ出席した。</p> <p>II ポスターやチラシ配布による広報協力 本事業で行う展覧会や公演等の会場および当法人が運営するボーダレス・アートミュージアムNO-MAで、なら大会のポスター・チラシなどを設置、配付した。</p> <p>III なら大会応援バナー活用による広報協力 本事業で行った「美術＋舞台芸術 障害者の芸術活動支援セミナー」のチラシに、大会の応援バナーを掲載し、広報協力した。</p>
<p><b>⑩文化プログラム等について</b></p> <p>※東京 2020 参画プログラム、beyond2020 への申請内容、取組実績などについて記入すること。</p>	
<p><b>⑪その他</b></p>	



※下記（２）については、広域センターを実施した団体のみ記入すること

**（２）広域センター（ブロックレベル）**

**①相談窓口の体制（人数や勤務体制等）**

※支援センターに対する相談体制、未実施都道府県に対する支援体制を記入すること。

※窓口担当が不在時の対応等についても記入すること。

※専門家アドバイザーも含め、どのような相談体制で事業を実施したのか、できるだけ具体的に記入すること。

**②人材育成のための研修計画**

**（ア）支援センターに対する研修**

※研修内容、回数、研修方法、講師等の実績についても記入すること。

**（イ）未実施都道府県に対する研修**

※研修内容、回数、研修方法、講師等の実績についても記入すること。

※(ア)と(イ)を同時に行った場合などは、それぞれの欄に標記し、注をつけるなど、明確に記入すること。

**③関係者のネットワークづくり**※ネットワーク構築方法、ネットワークを活用した具体的な取組実績について、できる限り具体的に記入すること。

**④ブロック連絡会議の開催**

※実施団体向けの勉強会や外部への報告会の内容、開催時期等について、実施した内容を具体的に記入すること。

**⑤障害者芸術・文化祭との連携**

※全国障害者芸術・文化祭やサテライト開催と連携した実績について、具体的に記入すること。

**⑥文化プログラム等について**※東京 2020 参画プログラム、beyond2020 への申請内容、取組実績などについて記入すること。

**⑦その他**

※下記（3）については、連携事務局を実施した団体のみ記入すること。

### (3) 連携事務局

#### ① 事務局の体制

※組織図等があれば添付すること。

#### ② 事務局の行った業務

※広域センターのとりまとめ役として実施した業務について、具体的に記入すること。

#### ③ 全国連絡会議の開催

※広域センター等向けの勉強会や外部への報告会の内容、開催時期について、実施した内容を具体的に記入すること。

**④障害者芸術・文化祭との連携**※全国障害者芸術・文化祭やサテライト開催と連携した実績について、具体的に記入すること。

**⑤文化プログラム等について**

※東京 2020 参画プログラム、beyond2020 への申請内容、取組実績などについて記入すること。

**⑥その他**

※下記については、全実施団体が記入すること。

## 事業の実施により得られた成果の今後の活用について

※事業の実施により得られた成果の今後の活用方法について具体的に記入すること。

相談対応では、舞台芸術分野に関する相談を掘り起こすために県内の舞台表現活動現場の調査を引き続き継続する。今年度、実演者の権利保護に関して弁護士からのスーパーバイズを受け、アドバイザーのスキルアップに取り組んだことは次年度の相談支援に活用される取り組みとなった。別添報告書にも詳細をまとめており、他の芸術文化活動支援センターに配付して今後の相談対応に活用してもらう。

「美術＋舞台芸術 障害者の芸術活動支援セミナー」では、舞台芸術に関する研修への参加者を増やすために、新たに舞台関係者に協力委員として関わっていただき助言を得て、研修内容を検討する。舞台表現活動現場の訪問調査でヒアリングした結果、希望する研修会の内容について、先進地見学や舞台芸術分野の専門家との意見交換の場を求める声が多かったため、それらの要素も取り入れた内容とする。鑑賞支援では視覚障害者や発達障害者とのプログラムに取り組み、障害種別によらず鑑賞できるようソフト面でのアクセシビリティを検討した。特に発達障害の鑑賞支援については、全国でも初めての取り組みであるため、外部から手法を学びたいという声が届いている。どちらにおいても一つの手法に固定化せず、国立民族学博物館の広瀬浩二郎氏など専門家からのアドバイスも得ながら、より鑑賞が深まる内容を検討し、その鑑賞プログラムを全国のモデル事例として発信する。

「第14回滋賀県施設・学校合同企画展」の関連イベントで、地域のイベントスペースで歌やダンスの発表を行ったことは、既存の活動体では活動していない障害のある方々がパフォーマンスをする機会を創出した。その出演者からは舞台表現発表を喜ぶ声が多くあり、多様な発表の場づくりをしていく必要性が明らかになった。出演者公募型の公演や既存の活動体と共働した市民参加型のプロジェクトをするなどして、そのニーズに対応できる事業を行う。

県内の障害福祉施設、全国の障害者芸術文化活動支援センターや活発に芸術文化活動に取り組む事業所、都道府県の障害福祉担当主管課等に配付する。当法人ウェブサイトでの公開とともに全国の障害者芸術文化活動支援センターに配付して活用してもらうことを目指す。

